

小野田地区の句碑をめぐって

本市は平成十七年の合併以前は、小野田市と山陽町に分れており、俳句活動も別々の流れの中で、互いに積極的な交流は乏しかったようだ。両地区にはいくつかの句碑が建立されており、それらを巡ることによって、それぞれの活動の特徴も見えてくる。前号に厚狭地区を掲載したので、今回は小野田地区に残る句碑を列記してみたい。

【小野田地区】

竜王山

花つけて松に懸りぬ山帰来

伊藤無門

昭和三十年十月

波瀬之崎・萬福寺

早柄の渦汐に乗せ雛流す

吉屋北斗

昭和四十九年四月

〔雪解〕師弟句碑

竜王山・子持御前

鶴より今朝は笹子の早く来し

伊藤颯空

昭和四十六年六月

〃

新茶くむつひのしづくに力あり

皆吉爽雨

昭和五十年五月

〔かつらぎ〕師弟句碑

西之浜新沖・緑地公園

石炭の露頭芒を生ひしめず

森田 峠

平成元年九月

〃

豊の田の下に坑道阿里と云ふ

西村草生

平成十一年五月十六日

別府八幡宮

ものいへば唇寒しあきのかぜ

松尾芭蕉

明治十四年十月

杵築神社

猶見たし花にあけゆく神の顔

〃

明治三十二年五月

当島八幡宮

夏来てもたゝ一ツ葉のひとはかな

〃

明治末頃

小野田地区で特徴的なことは、二箇所に師弟句碑が建立されていることだ。地域産業の振興により、地域内の俳句活動も盛んになり、中央の結社への参加、結びつきが強まり主宰の小野田来訪も再三実現したようだ。「雪解」も「かつらぎ」もホトトギス系の結社で、その時代によって多少の流れの違いを見せながらも、この地の句会にその精神を繋いで現在に到っている。合併後の山陽小野田俳句協会の初代会長は、平成二十五年八十五歳で亡くなった西村草生氏であった。

(文・山本桂子)